

火山噴火への備え

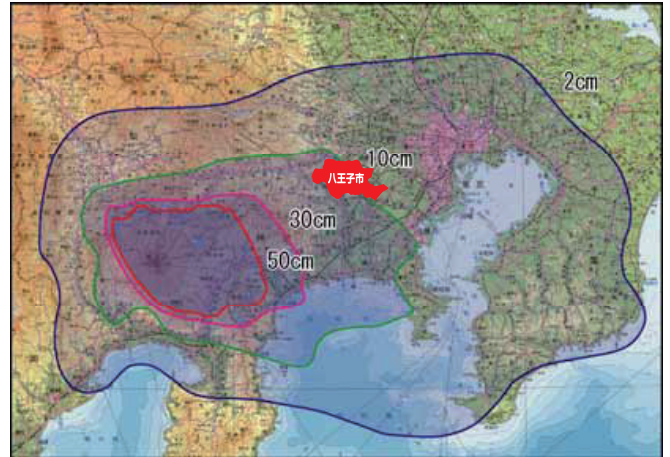
本市に被害を及ぼすおそれがある火山としては、富士山、箱根山があります。

八王子市から富士山山頂火口までは距離があるため、溶岩流や火砕流などの被害を受けることはありませんが、大規模な噴火が発生した際には、降灰による次のような被害が想定されます。

降灰による本市への影響

- 濡れると道路が滑り易くなるほか、視界が悪化
- 雨どいや側溝、下水道などの詰まり
- 降灰時の車のワイパー使用によるフロントガラスなどの損傷
- 空調機器や電子機器などの故障
- 農作物の収穫量への影響
- 電車等、公共交通機関への影響

富士山防災マップ(降灰の影響がおよぶ可能性の高い範囲)



出典：内閣府 富士山火山広域防災対策基本方針 資料より

降灰による体への影響

見た目は雪のようにきれいに見えることもありますが、人体に様々な健康被害をもたらす可能性があります。

- 目への影響**
 - ・火山灰は鋭くとがっているため、目に入ると非常に痛く、こすると結膜炎や角膜剥離を起こします。
- 呼吸器系への影響**
 - ・火山灰を吸い込むと気管や肺が傷つけられ、幼児や高齢者の方は呼吸器系の病気になる可能性があります。
 - ・わずかな降灰でも、ぜんそくなどの持病がある方は注意が必要です。
 - ・1cm以上の降灰になると、健康な人でも呼吸器に障害が出る可能性があります。
- 皮膚への影響**
 - ・火山灰が肌に付くとベタベタします。髪の毛に付着した火山灰は取るのが大変です。
 - ・火山灰に火山ガスが付着している場合には皮膚炎を起こすこともあります。皮膚の弱い方は、肌を露出させない等の注意が必要です。

降灰時の留意事項

- 無用の外出を避け、窓を閉め、なるべく屋内に留まる(呼吸器系が弱い人は特に注意)。
- 火山灰をまきあげるため、不要な車の運転はしない。
- 外出には防じんマスク、防じんメガネを使用。防じんマスクがないときは、濡らしたハンカチで代用する。
- 排水口、雨どい、換気口、建物、機械等の中に、極力火山灰を入れない。
- 濡れた火山灰の上は滑りやすいので、はしごや屋根に登るときは注意する。